

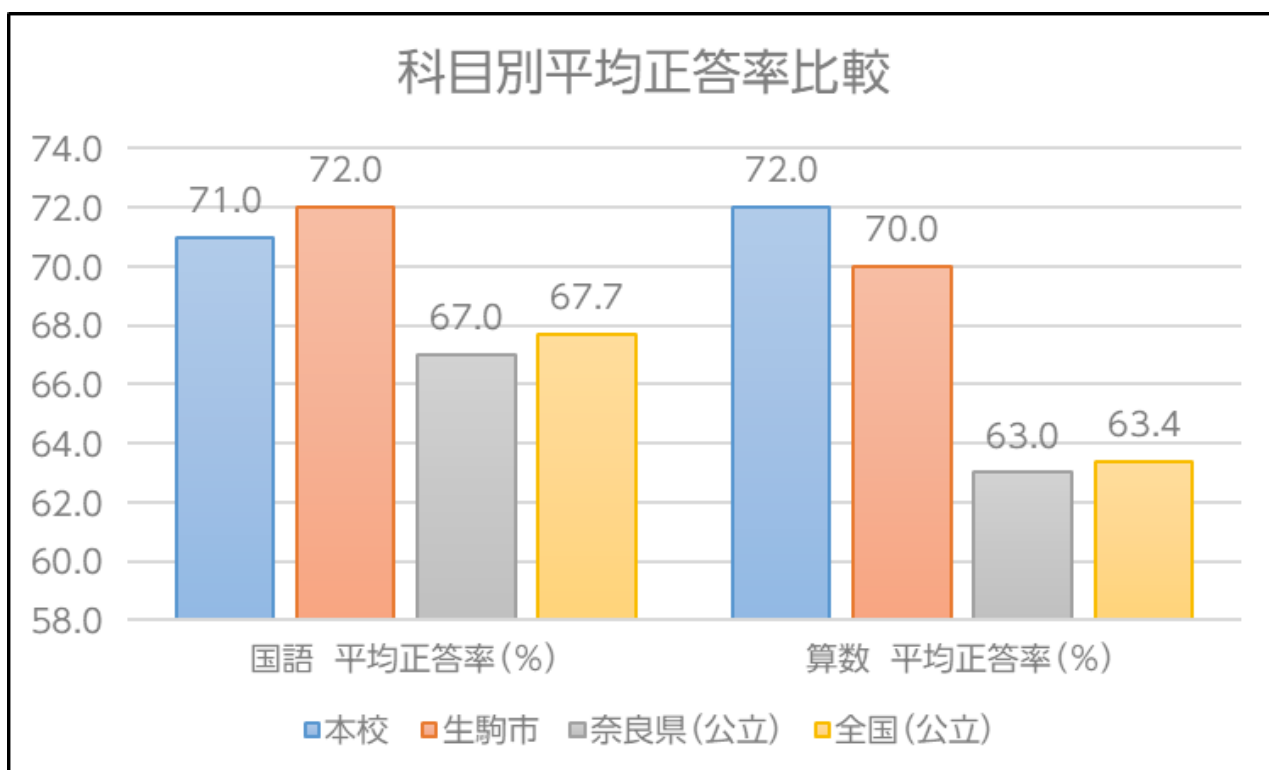
令和6年度

全国学力学習状況調査における調査結果について

生駒市立生駒東小学校

今年度も全国学力学習状況調査が実施されました。以下に本校の調査結果の概要を示します。

なお、この調査は学力の全てを把握するものではなく、特定の一部を示しているものです。調査結果から分かった成果と課題を、今後の教育活動に生かしていきたいと考えます。



【全体】

学力調査については、本校は、国語では生駒市の平均を1ポイント下回ったものの、奈良県、全国の平均を上回る結果となりました。算数では、全国、奈良県、生駒市の平均を上回る結果となっており、奈良県、全国との比較では、9ポイント近く上回りました。このことから、本校の児童の国語、算数の学力については、一定水準、身についていると考えられます。しかしながら、課題とみられる領域もあり、今後の教育活動で改善を図っていく必要があります。

【国語】

「国語の勉強は好きですか」という質問に対して、本校は63.5%の児童が肯定的に回答しており、全国、奈良県の回答率を上回っています。また、「国語の勉強は大切ですか」という国語科の学習の重要性についての質問に対しては95.3%の児童が、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という質問に対しては94.1%の児童が肯定的に回答しており、多くの児童が国語科の学習を肯定的に捉え、その重要性についてもよく理解していることがわかります。そのため、国語科の学習のありようについての質問に対しても、多くの児童が肯定的に回答しています。「国語の授業で、違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら、情報を整理していますか」とについては80.0%の児童が、「国語の授業で、目的に応じて、話した

めに集めた材料を、いくつかのまとまりに分けたり結び付けたりしながら、伝える内容を考えていますか」については82.4%に児童が肯定的に回答しています。また、「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか」については88.2%の児童が、「国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目していますか」については87.0%の児童が肯定的に回答しています。これらは、いずれも全国や奈良県の回答率を上回っており、国語科の学習において、その目的をよく理解して臨んでいることがわかります。

その反面、国語科の学習内容の理解についての質問である「国語の授業の内容はよく分かりますか」という質問に対しては85.8%の児童が肯定的に回答し、全国や奈良県の回答率を若干下回りました。

調査問題の集計結果を見てみると、奈良県や全国よりも正答率が上回った問題が多く、正答率が全国平均を下回った問題は2問で、「我が国の言語文化に関する事項」の理解をみる問題と、「読むこと」の理解をみる問題でした。「読むこと」の理解をみる問題は、人物像を具体的に想像することができるかどうかをみる問題でしたが、場人物の人物像を具体的に想像するためには、登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結び付け、それらを基に性格や考え方などを総合して判断することが重要となります。本校の児童の誤答類型を見てみると、「設問文を正しく読み取れていない」「登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結び付け、それらを基に性格や考え方などを総合して判断できていない」ということが見てとれます。普段からカギとなる言葉や文に着目し、叙述に即して文を読むことや、与えられた文章から必要な情報を選び取る

【原さんの読書の記録】

日付	題名	感想
4/10 ~ 4/11	大造じいさんとガン	「いつまでも、いつまでも、見まもっていました。」という最後の一文が心に残った。残雪への気持ちが変化するところに感動した。
4/21 ~ 4/25	星の王子さま	キツネが「心で見なくちゃ」と話したところが、形のないものの大切さを考えるきっかけになった。
4/27 ~ 4/29	はらっぱのおはなし 「オニグモじいさんの朝ごはん」	「わしが食って生きているのはな、朝日のひかりだよ」という言葉に心があたたかくなった。シリーズの他の作品も読みたい。
4月のふり返し		

- 1 読書を通して、学校図書館や地いきの図書館の利用の方法を知ることができたと気づいた。
- 2 読書を通して、科学的な事実について、疑問に思ったことを調べて解決できたと気づいた。
- 3 読書を通して、自分が文章を書くときに役に立つ書き方を学ぶことができたと気づいた。
- 4 読書を通して、自分の心にひびく言葉や今までになかった考えを見つけることができたと気づいた。

四 原さんの学級では、日ごろから読んだ本を記録しています。次は、【原さんの読書の記録】です。原さんは自分の記録を読み返し、気づいたことを、下の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

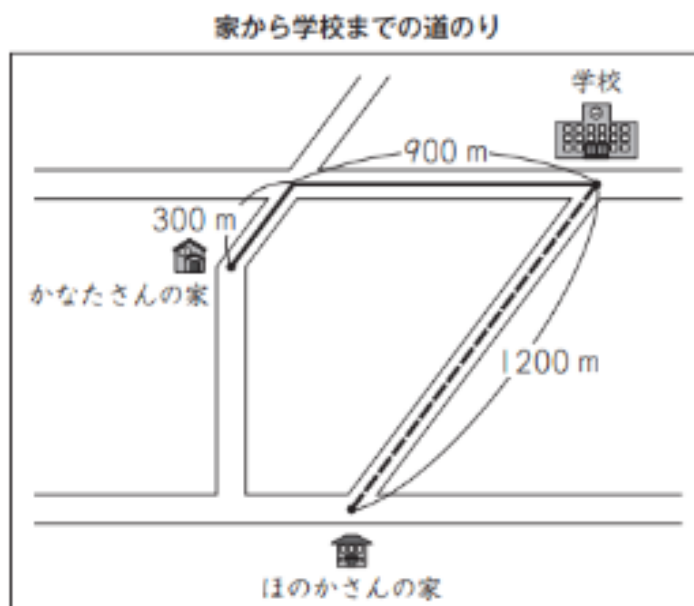
学習を続けていく必要があります、今後の指導に生かしていきたいと考えます。「我が国の言語文化に関する事項」の理解をみる問題は、日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くことができるかどうかをみる問題でした。選択肢の1から4に記載されている内容は、いずれも読書の意義として考えられることではありますが、提示された資料の表現から主旨をつかむことに弱さが見られました。これらのことから、児童に表現に着目して資料を活用する力を育成していきたいと考えます。

【算数】

「算数の勉強は好きですか」という質問に対して、本校は55.3%の児童が肯定的に回答しており、全国の回答率を6ポイント、奈良県の回答率を3ポイント近く下回っています。それに対して、「算数の勉強は大切だと思いますか」という算数科の学習の重要性についての質問については、全国、奈良県の回答率を上回って97.7%の児童が、「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という質問に対しては96.5%の児童が肯定的に回答しており、多くの児童が算数科の学習を肯定的に捉え、その重要性についてもよく理解していることがわかります。そのため、算数科の学習のありようについての質問に対しても、多くの児童が肯定的に回答し、「算数の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていますか」という質問には、88.3%の児童が肯定的に回答しています。

調査問題の集計結果を見てみると、ほとんどの問題で奈良県や全国よりも正答率が上回っており、正答率が全国平均を下回った問題は1問で、「変化と関係」の理解をみる問題でした。全国平均を10ポイント以上上回っている問題が複数あり、よく理解している様子が見てとれます。

(3) かなたさんとほのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いて行きました。



家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。

家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分間かかりました。

それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。

下の **1** と **2** から選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

1 かなたさん

2 ほのかさん

「変化と関係」の理解をみる問題は、道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題でした。道のりが等しい場合には時間が短いほど速さが速いと考えたり、それぞれの速さを求めたりすることが必要になります。今回の設問に対しては、次の二つの事柄を書くことが必要でした。

- ・かなたさんと、ほのかさんが歩いた道のりが等しいこと
- ・かなたさんがかかった時間が、ほのかさんがかかった時間よりも短いこと

しかし、本校の児童の誤答類型を見てみると、ひとつの事柄のみを解答しているものが非常に多かったです。算数科の学習では、論理的に考えを進めてそれを説明したり、判断や考えの正しさを説明したりすることが大切です。今後の指導においては、ある事柄が成り立つことの原因や判断の理由を取り上げるべき事柄をもれなく取り上げて述べることや、結論を明確にして述べるように指導していきたいと思います。

【児童質問】

肯定的な回答が、生駒市、奈良県、全国のいずれよりもの回答率よりも上回っていたのは、21項目でした。その中でも「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」という質問に対しては、いずれの回答率よりも10ポイント以上、上回っており、総合的な学習の時間において、探究的な学習ができたと言えます。さらに、「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」質問に対して、週3回以上使用したという回答率は、生駒市、奈良県、全国よりも20ポイント以上、上回っており、非常に高い達成率でした。これは、本校の児童がICT機器を文房具として捉え、積極的に利用していると言えます。今後、探究的な学習や個別最適な学びにおいて、さらに効果的な利用を進めていきたいと考えます。

それに対して、肯定的な回答が、生駒市、奈良県、全国のいずれよりもの回答率よりも下回っていたのは、次の8項目でした。「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」「自分には、よいところがあると思いますか」「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」「国語の授業の内容はよく分かりますか」「算数の勉強は好きですか」「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」「英語の授業の内容はよく分かりますか」そのうち6項目は学習に関することでした。本校の児童は、学力テスト結果はとても高いですが、学習に対する意識や自己肯定感では、肯定的に捉えにくい状況であることが分かります。教科の学習内容の理解についての意識を変えるためには、授業の在り方について改善を図る必要があると思われます。学習者である児童が学びの主役となり、主体的に学習を進めていくことで、学ぶ楽しさを実感させていきたいと考えます。

生駒市の回答率は上回ったものの、奈良県、全国の回答率を下回ったものは、「将来の夢や目標を持っていますか」「人が困っているときは、進んで助けていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」「学校に行くのは楽しいと思いますか」の5項目でした。「将来の夢や目標を持っていますか」「人が困っているときは、進んで助けていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の3項目は僅差ですが、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」「学校に行くのは楽しいと思いますか」の2項目は2ポイント以上の差がありました。特に、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」については、その結果を私たち教職員が真摯に受け止めなければならないと思います。

肯定的な回答率が 95%以上だった項目は10項目で、そのうち教科学習に対する意識についての項目が4項目でした。それ以外は、「朝食を毎日食べていますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の6項目でした。伝え合う力の育成を目指して協働的な学びを進めてきた結果が見てとれます。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」については 100%の回答率で、すべての児童が高い志を持っていることがわかり大変嬉しく思います。子どもたちのこの思いに応える教育活動の推進を今後も図っていきたいと考えます。